

原 著

臨床研修終了後の研修歯科医のキャリアパスに関する調査

北 條 正 秋<sup>1)</sup> 福 原 隆 久<sup>2)</sup> 山 内 六 男<sup>3)</sup>

A Survey on Career Paths for Dental Residents after Clinical Training

HOJO MASAOKI<sup>1)</sup>, FUKUHARA TAKAHISA<sup>2)</sup>, YAMAUCHI MUTSUO<sup>3)</sup>

研修歯科医の臨床研修終了後のキャリアパスについて朝日大学歯学部附属病院で臨床研修を行った研修歯科医80名を対象に調査を行った。

調査内容は以下の通りである。歯科医師として一人前になるまでに必要な年数、研修終了後の進路、開業希望の有無、専門知識を得たい診療科名、上記専門知識の習得方法、認定医あるいは専門医取得希望の有無、今後、注目を浴びると思う診療科名、である。また、開業を希望した場合には開業予定年数、開業した場合の希望年収、可動年数を聞いた。

歯科医師として一人前になるまでには5年以上かかると答えた者が半数以上を占めていた。研修終了後の進路では開業医勤務を答えた者が半数を占めていた。開業は約70%が希望しており、また開業には卒後10年以上を要すると考えているようであった。開業した場合の年収では2,000万円以上を希望する者が多かった。診療できる年齢に関しては、65歳以下と答えた者が多く、次いで70歳以下であった。

専門知識を得たい診療科ではインプラントが最も多く、次いで補綴歯科、歯周病、ホワイトニング、審美歯科の順であった。また、知識は講習会で習得すると答えた者が約半数であった。留学を希望する者は2名であった。認定医あるいは専門医の取得を希望する者は約60%であった。希望する診療科ではインプラントを希望する者が最も多く、次いで審美歯科、歯周病、補綴歯科の順であった。

将来的に発展性のある診療科としては、インプラント、審美歯科、無痛治療、ホワイトニング・レーザー治療をあげていた。

今回の調査から、研修歯科医のキャリアパスとしては、開業医勤務後の開業が多く、認定医や専門医取得を希望している者も多いことなどがわかった。

キーワード：研修歯科医、キャリアパス、開業、専門医

*A survey was conducted on career paths for 80 dental residents who had completed clinical training at Asahi University Hospital.*

*The surveyed items include followings: the number of years required until they become independent as dentists, the career paths after clinical training, expectations to open a private dental clinic, specialty fields that they would like to study, methods of acquiring knowledge in these fields, expectations to become a certified or specialist dentist, and specialty fields which they think would attract attentions in the future. Moreover, for those who had been expecting to open a private clinic, we asked the number of years that they would need to do so, how much income they would expect annually, and how many years they would like to work.*

*More than a half of the subjects answered that it would take more than 5 years to become independent*

<sup>1)</sup> 神奈川県開業

<sup>2)</sup> 京都府開業

<sup>3)</sup> 朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野

<sup>1)</sup> 〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-3-1

<sup>2)</sup> 〒614-8297 京都府八幡市欽明台西31-8

<sup>3)</sup> 〒501-0296 岐阜県瑞穂市穂積1851

<sup>1)</sup> MM Dental Clinic

<sup>2)</sup> Ayumi Dental Clinic

<sup>3)</sup> Department of Prosthodontics, Division of Oral functional Sciences and Rehabilitation, Asahi University School of Dentistry

<sup>1)</sup> 3-3-1 Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama Kanagawa 220-0012, Japan

<sup>2)</sup> 31-8 Kinmeidainishi, Hachiman, Kyoto 614-8297, Japan

<sup>3)</sup> 1851 Hozumi, Mizuho, Gifu 501-0296, Japan

(平成29年4月11日受理)

as a dentist. Also, a half of them answered that they would like to work at a private dental clinic after training. About 70% of the subjects had been expecting to open a clinic in the future, and they appeared to believe that it would take more than 10 years after graduation to open the clinic. For the annual income, majority of them had been expecting to receive more than 20 million yen. For the age that they can practice, the most common answer was less than 65 years old, followed by less than 70.

The specialty fields that they would like to study the most was dental implant, followed by prosthesis, periodontal diseases, whitening, and cosmetic dentistry. More than a half of the subjects answered that they would acquire knowledge through a course of lectures. Two subjects had been considering studying abroad. About 60% had expectations to become a certified or specialist dentist. The specialty fields that they would like to practice the most were dental implant, followed by cosmetic dentistry, periodontal diseases, and dental prosthesis.

The specialty fields that they believed to be further developed in the future included dental implant, cosmetic dentistry, pain-free treatment, and whitening/laser treatment.

It was revealed in this survey that, for the career path, majority of dental residents had been expecting to open their own clinic after working at a private dental clinic and to become a certified or specialty dentist in the future.

Key words: dental residents, career paths, private dental clinic, specialist dentist

## 目 的

臨床研修医の研修終了後の進路に関しては、ほとんどが大学病院やその他の病院に進み、その後もキャリアパスとしての医学博士取得や専門医取得を望む者が多いようである<sup>1,2)</sup>。一方、研修歯科医の研修終了後の進路についても一部調査されており、開業医勤務を希望する者が多いことが報告されている<sup>3,4)</sup>が、歯学博士取得などに関しては、臨床研修医に比べて希望が少ないようである<sup>5)</sup>。このように医科と歯科では臨床研修終了後のキャリアパスについての違いがあるが、研修歯科医のキャリアパスについての詳細は不明な点が多い。

そこで今回、朝日大学歯学部附属病院のプログラムで研修を行った研修歯科医のキャリアパスについて調査を行ったので報告する。

## 方 法

調査は、平成19年度および20年度の朝日大学歯学部附属病院に所属した研修歯科医80名である。調査時期は、各コースでの研修が終了し、大学における最終研修時期とした。

調査内容は、歯科医師として一人前になるまでに必要な年数、研修終了後の進路、開業希望の有無、専門知識を得たい診療科名(補綴、歯周病、口腔外科、小児歯科、歯内療法、レーザー治療、接着歯科、矯正歯科、インプラント、障害者歯科、高齢者歯科、審美歯科、スポーツ歯科、無痛治療、ホワイトニング、顎関節症、在宅診療、その他)、上記専門知識の習得方法、

認定医あるいは専門医取得希望の有無(希望する認定医あるいは専門医科名)、今後、注目を浴びると思う診療科名、である。また、開業を希望した場合には開業予定年数、開業した場合の希望年収、可動年数を聞いた(表1)。

## 結 果

歯科医師として一人前になるまでには5年以上かかると答えた者が50%、次いで10年以上であった(図1)。

研修終了後の進路では開業医勤務を答えた者が57%、次いで大学院が23%、本学研修が16%であった(図2)。

開業は約70%が希望していた(図3)。開業には10年以上の臨床経験が必要と答えた者が54%で、次いで10年以内が32%、5年以内が最も少なかった(図4)。開業した場合の希望する年収では2,000万円以上が48%、次いで100万円以下が17%であった(図5)。

一方、診療できる年齢に関しては、65歳以下と答えた者が39%と最も多く、次いで70歳以下の31%であったが、80歳以上と答えた者も13%いた(図6)。

専門知識を得たい診療科ではインプラントが最も多く、次いで補綴歯科、歯周病、ホワイトニング、歯周病、審美歯科が多く、障害者歯科、高齢者歯科、スポーツ歯科などは少なかった(表2)。その他としては麻酔科の専門知識を得たいとの答えもあった。また、専門知識は講習会で習得すると答えた者が約半数であり、次いで大学と勤務先がほぼ同数であった(図7)。留学を希望する者は2名であった。

認定医あるいは専門医の取得を希望する者は60%で

表1 アンケート内容

以下の質問にお答え下さい。該当するものに○印をつけて下さい。

- 一人前の歯科医師になるには、何年かかるとお考えですか。  
1年、2年、3年、4年、5年以上、10年以上
- 研修終了後の進路について。  
大学院（本学・他大学）（講座名： ）、本学修練医、開業医勤務、私立病院勤務、公立病院勤務、大学病院勤務、海外留学、その他（ ）
- いずれかは開業するつもりですか。“はい”・“いいえ”  
“はい”と答えた方だけ4～6の質問に答えて下さい。
- 何年先に開業するつもりですか。  
5年以内、10年以内、10年以上
- 開業した場合の希望年収はいくらですか。  
500万円以下、1000万円以下、1500万円以下、2000万円以下、2000万円以上
- 何歳まで診療ができるとお考えですか。  
60歳以下、65歳以下、70歳以下、75歳以下、80歳以下、80歳以上

以下の質問には全員お答え下さい。

- 今後、専門知識を得たい診療科名どれですか。複数回答可  
補綴、歯周病、口腔外科、小児歯科、歯内療法、レーザー治療、接着歯科、矯正歯科、インプラント、障害者歯科、高齢者歯科、審美歯科、スポーツ歯科、無痛治療、ホワイトニング、顎関節症、在宅診療、その他（ ）
- 上記専門知識をどこで習得しますか。  
大学、勤務先、講習会（本学生涯研修・その他）、留学、その他（ ）
- 学会の認定医あるいは専門医を取得したいですか。“はい”・“いいえ”
- どの認定医あるいは専門医を取得したいですか。複数回答可  
補綴、歯周病、口腔外科、小児歯科、歯内療法、レーザー治療、接着歯科、矯正歯科、インプラント、障害者歯科、高齢者歯科、審美歯科、スポーツ歯科、ホワイトニング、顎関節症
- 今後、注目を浴びると思う診療科名はどれですか。複数回答可  
補綴、歯周病、口腔外科、小児歯科、歯内療法、レーザー治療、接着歯科、矯正歯科、インプラント、障害者歯科、高齢者歯科、審美歯科、スポーツ歯科、無痛治療、ホワイトニング、顎関節症、在宅診療、その他（ ）

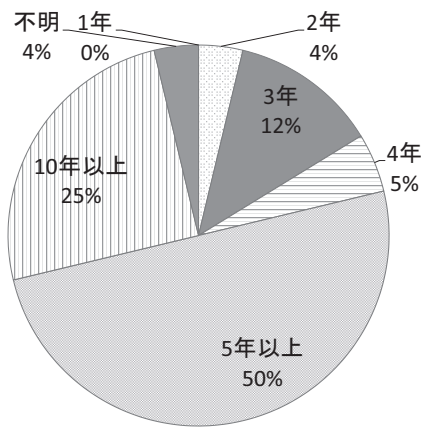


図1 歯科医師として一人前になるまでの期間

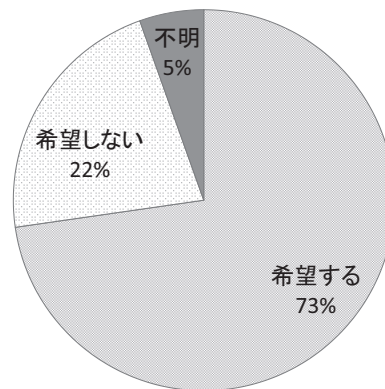


図3 開業希望の有無

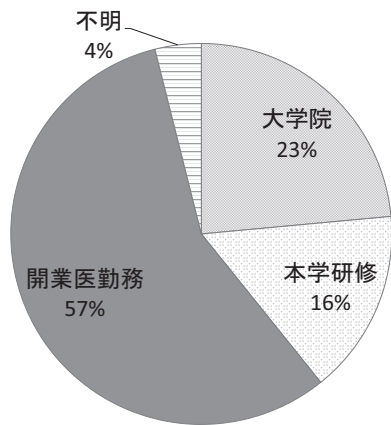


図2 研修終了後の進路

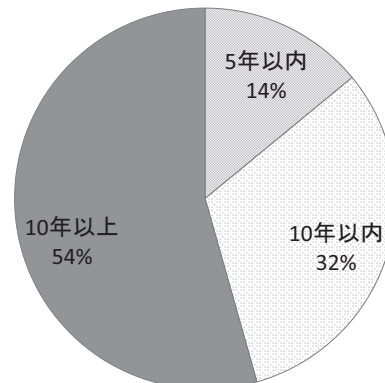


図4 開業までの年数

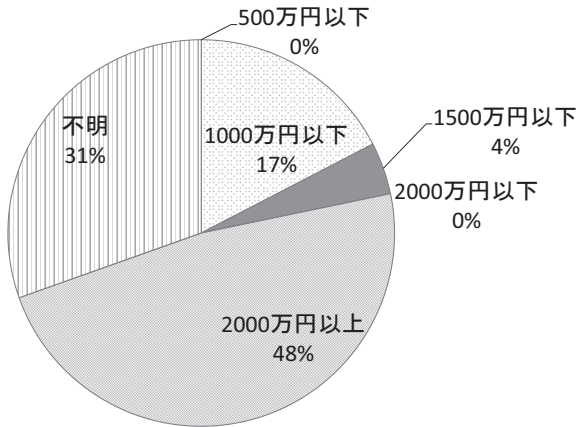


図5 開業した場合の希望年収

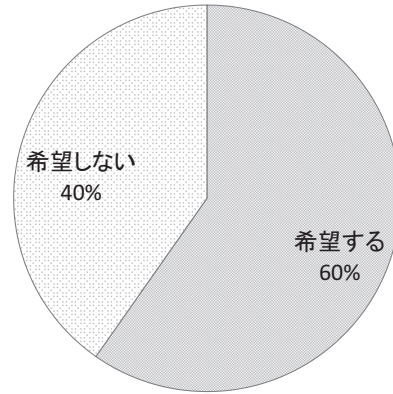


図8 認定医・専門医取得希望の有無

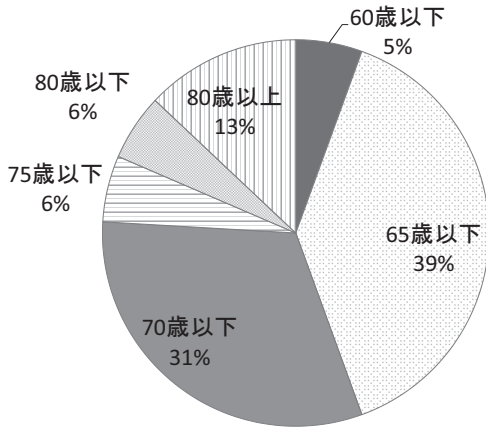


図6 歯科医師として診療できる年数

表2 知識を得たい診療科名

- インプラント (53)
- 補綴 (46)
- 歯周病 (43)
- ホワイトニング (41)
- 審美歯科 (39)
- 小児歯科 (32)
- レーザー治療 (31)
- 歯内療法 (30)
- 顎関節症 (29)
- 無痛治療 (25)
- 矯正歯科 (23)
- 口腔外科 (19)
- 接着歯科 (17)
- 在宅診療 (17)
- スポーツ歯科 (15)
- 高齢者歯科 (14)
- 障害者歯科 (10)

( ) 内は回答者数を示す。

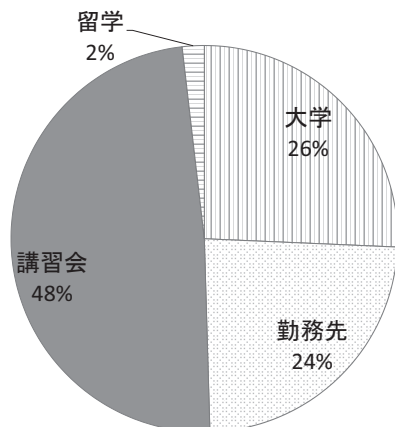


図7 専門知識の習得先

表3 希望する認定医・専門医診療科名

- インプラント (25)
- 審美歯科 (16)
- 歯周病 (14)
- 補綴 (12)
- レーザー治療 (11)
- ホワイトニング (11)
- 接着歯科 (6)
- 矯正歯科 (6)
- 顎関節症 (6)
- スポーツ歯科 (5)
- 高齢者歯科 (4)
- 口腔外科 (3)
- 歯内療法 (3)
- 障害者歯科 (2)
- 小児歯科 (2)
- 無痛治療 (0)
- 在宅診療 (0)

( ) 内は回答者数を示す。

表4 将来性のある診療科名

インプラント (34)
審美歯科 (31)
無痛治療 (29)
ホワイトニング (24)
レーザー治療 (24)
歯周病 (20)
高齢者歯科 (12)
接着歯科 (7)
矯正歯科 (7)
補綴 (5)
スポーツ歯科 (3)
小児歯科 (2)
障害者歯科 (2)
歯内療法 (1)
口腔外科 (1)
顎関節症 (1)
在宅診療 (1)

( ) 内は回答者数を示す。

あった(図8)。診療科ではインプラントを希望する者が最も多く、次いで審美歯科、歯周病、補綴歯科の順であった。また、小児歯科、障害者歯科、口腔外科、歯内療法は非常に少なかった(表3)。

将来的に発展性のある診療科としては、インプラント、審美歯科、無痛治療、ホワイトニング・レーザー治療をあげており、歯周病、顎関節症が続いた。また、歯内療法科、補綴歯科、口腔外科、小児歯科、障害者歯科、スポーツ歯科などは発展性がないと思っているようであった(表4)。

## 考 察

研修終了後の進路では開業医勤務を答えた者が半数以上を占めていたが、この結果は、笠井ら<sup>3)</sup>や長谷ら<sup>4)</sup>の報告とも一致していた。しかし、Takahashiら<sup>6)</sup>の報告では開業医勤務希望は34%と少なく、大学附属病院の開業場所などの影響があるかも知れない。また今回の調査では開業を希望する者が70%いたが、長谷ら<sup>4)</sup>の報告では研修後10年での開業希望は49.4%であり、また平成25年度の歯科医師臨床研修終了者のアンケートで45.5%が開業を希望しており<sup>5)</sup>、研修終了後には開業医勤務を希望する者が多いことが分かる。しかし臨床研修医に関するアンケート調査では、開業を希望する者はほとんどいなかった<sup>2)</sup>ことから、歯科医師は医師に比べて開業する者の割合が高いといえる。ただし、一人前の歯科医師になるためには5年以上あるいは10年以上かかると考えていることから、ある程度の臨床経験がなければ開業できないことも理解しているようであった。

開業した場合の希望する年収では2,000万円以上を

希望する者が多かったが、第20回医療経済実態調査(医療機関等調査)に<sup>7)</sup>よれば、個人開業医の平均月収は約120万円であり、年収の結果だけみれば、現在の歯科の現状を楽観視しているようであった。

診療できる年齢に関しては、65歳以下と70歳以下を合わせると70%であったが、平成26年(2014年)医師・歯科医師・薬剤師調査の概況<sup>8)</sup>では病院・診療所に従事するのは50~59歳が22.4%、50~59歳が26.5%でこれらの年代が最も多いものの、60~69歳が18.0%、70歳以上も7.2%従事しており、妥当な割合かもしれない。

一方、臨床研修医の約4割が医学博士の取得を希望していた<sup>2)</sup>が、今回の調査では23%が大学院進学を希望していた。Takahashiら<sup>6)</sup>の報告では698名の臨床研修医の内34%が大学院進学を希望しており、博士号取得に関して研修歯科医は少ないことが分かった。

厚生労働省の平成24年に行った臨床研修医に対するアンケート調査<sup>9)</sup>では、専門医・認定医等の資格の取得希望が95.1%であった。今回の調査では専門医、認定医取得希望が60%であったことから、歯科と医科における認定医・専門医に対する意識の違いが明らかとなった。

以前我々が調査した歯科医院のホームページでは、インプラント、スポーツ歯科、審美歯科を診療科名として表示しているものが多かった<sup>10)</sup>ことから、専門医・認定医取得がインプラント、審美歯科が上位にくることは理解できる。しかし、スポーツ歯科の専門医を希望する者がそれほど多くなかったのは、専門医制度の知識がないことや、この時点では専門医を必要としないことなどが考えられる。一方、臨床研修医では、将来従事したい診療科では、内科、外科、小児科、消化器科、整形外科などのベーシックな診療科をあげており、ホームページなどで人気の美容外科は、ほとんど希望していなかった<sup>11)</sup>。自費診療による収入増加可能性が高い診療であるインプラントや審美歯科を希望する者が多く、保険医療が主体の医科との違いが、このアンケート結果からも分かる。

専門知識は講習会で習得すると答えた者が約半数であったが、臨床研修医ではほとんどが大学病院での進路を選んでおり、ここにも医科と歯科での研修医の意識の違いが分かる。また、留学を希望する者は2名であったが、臨床研修医の調査では約65%が体験してみたいと答えており<sup>12)</sup>、積極的な留学希望が少ないことも分かった。

将来的に発展性のある診療科としては、インプラント、審美歯科、無痛治療、ホワイトニング・レーザー治療をあげており、歯周病、顎関節症が続いた。また、

歯内療法科，補綴歯科，口腔外科，小児歯科，障害者歯科，スポーツ歯科などは発展性がないと思っているようであった。本学においては，インプラント，歯周外科，障害者歯科などの実習あるいは講義を行っていることから，これらの結果は知識がないためではないと思われる。

今回の調査では男性，女性別の調査は行っていないが，田口ら<sup>13)</sup>は勤務形態は男性と女性で有意に異なっており，女性においては婚姻の有無により勤務形態は大きく異なり，男性のほうが今後のキャリアプランを明確にもっていたと報告している。また，塩津ら<sup>14)</sup>は女性歯科医師において結婚の有無，子供の有無は就労の有無に有意な影響を与えており，勤務形態には有意な影響を与えていなかったと報告しており，男性と女性でのキャリアパスに対する考え方の違いが明確にできていることは明らかである。

今回の調査は，少し古いものの研修歯科医のキャリアパスについては現時点でも大きな違いはないと思われる。高橋ら<sup>15)</sup>は，歯科医師臨床研修における専門研修のその後の進路への影響について調べており，影響するとの答えが65%であったと報告しており，また田口ら<sup>13)</sup>は，臨床研修必修化における生涯にわたるキャリア支援は歯科医師個人のニーズとともに社会や時代の変化を敏感に反映したものである必要があり，今後さらに検討していく必要があると述べていることから，臨床研修期間内にキャリア教育を行う必要があると思われる。

## 結 論

今回の調査から，研修歯科医のキャリアパスとしては，開業医勤務後の開業が多く，認定医や専門医取得を希望している者が多いことなどが分かった。

本論文において，開示すべき利益相反状態はない。

## 文 献

- 1) 松尾 理，伊木雅之．特集／臨床研修後の進路：研修必修化2年を経て．基礎系医学研究者への進路．医学教育．2005；36：301-304.
- 2) 厚生労働省：平成26年臨床研修修了者アンケート結果，2015.

- 3) 笠井史郎，野田邦治，木尾哲朗，竹原直道，寺下正道，西原達次．歯学部1年次および臨床研修歯科医の歯科医療に関する意識調査．日歯医療管理誌．2008；42：260-267.
- 4) 長谷晃広，相田 潤，坪谷 透，小山史穂子，松山祐輔，三浦宏子，小坂 健．キャリア教育と研修歯科医の将来設計の関係 全国の研修歯科医を対象とした横断研究．口腔衛生会誌．2015；65：276-282.
- 5) 厚生労働省：平成25年度歯科医師臨床研修終了者アンケート調査結果概要，2013.
- 6) Takahashi T, Furusawa M, Katakura A, Sugito H, Hirata S, Ishii T, Kameyama A. Career paths and aspirations among postgraduate dental trainees on completion of clinical residency program at Tokyo Dental College. Bull Tokyo Dent Coll. 2014；55：103-109.
- 7) 厚生労働省：第20回医療経済実態調査（医療機関等調査），2015.
- 8) 厚生労働省：平成26年（2014年）医師・歯科医師・薬剤師調査の概況，2014.
- 9) 厚生労働省：平成24年臨床研修に関するアンケート調査，2012.
- 10) Okada M, Kasamura K, Fukuhara T, Mio M, Toyota M, Yamauchi M. Comparison of internet searches for specialized dental clinics in Japan and United States. Prosthodont Res Pract. 2008；7：144~146.
- 11) 厚生労働省：平成18年度「臨床研修に関する調査」最終報告，2006.
- 12) 上野雅巳．和歌山県立医科大学医学生・研修医の進路に関する意識．和歌山医学．2011；62：109-112.
- 13) 田口則宏，小川哲次，田中良治，小原 勝，笹原妃佐子．キャリアデザインからみた歯科医師臨床研修のアウトカム評価．日歯教誌．2008；24：182-189.
- 14) 塩津範子，桑山香織，河野隆幸，大塚恵理，武田宏明，鈴木康司，白井 肇，吉田登志子，鳥井康弘．女性歯科医師のキャリアに影響を与える要因に関する研究 岡山大学病院臨床研修修了女性歯科医師へのアンケート調査 結婚・子供の有無の影響．岡山歯誌．2015；34：47-51.
- 15) 高橋俊之，鬼丸亜季子，宇佐美未央，伊藤 悠，山口絵美，角田正健，山倉大紀，杉山利子，近藤祥弘，野呂明夫，野村武史，坂本輝雄，和光 衛，米津卓郎，亀山敦史，中島一憲．東京歯科大学千葉病院歯科医師臨床研修における専門研修について．歯科学報．2009；109：211-217.